

2010 年度自己点検・評価報告書

〔全学部共通〕

1. 教育内容・方法 (2) 教育方法等

助言項目①：

全学の授業科目を1冊にまとめた講義要項は簡略過ぎ、Web版では書式にしたがって整理されてはいるが記述内容に精粗が見られるので改善が望まれる。

(評価当時の状況)

冊子体での講義要項からWeb版のシラバスに切り替えるまさに過渡期であり、両媒体が併存している時だった。上記指摘のとおり講義要項(冊子)では簡略過ぎるのを認識したうえで、その改善を含めWeb版への移行を図ったが、まだ教員にもツールとしての馴染みがなく、かつ両媒体併存による入力(作成)負担が生じ、それが精粗につながっていた。

(評価後の改善状況)

2007年度からは完全にWeb版に切り替え、2008年度からは各教員が入力したシラバスをすべて印刷し、所属長(学部長など)に送り、内容確認を行った。不備がある場合は担当教員に加筆・修正を直接指示する方式を採り、記載状況の精粗改善を進めた。2009年度からはこの所属長確認を2回に増やした。

2008年度からは、このWebシラバスに、授業アンケート結果に対する教員コメントと準備学習の内容(学生が予復習しやすいよう、毎回の授業欄にテキストの章番号やページ数を記載)、さらには毎週の授業に必要な学習時間の入力を義務化し、これらを含め所属長が確認する方式を採り入れている。

上記の取り組みをとおして精粗改善を強く推進している。

(参考資料)

本学HP「シラバス検索」<https://plas.soka.ac.jp/csp/plas/syllabus.csp>

(別紙1-1～1-7) シラバス例示(各学部の専門科目)

(別紙1-8) 授業アンケート結果に対するコメント例示(3科目)

助言項目②：

FD活動については、教員の参加が基本的に教員個人の意思に委ねられている点を問題として自覚していながら、大学としての対策がないので、教授法などについて全体での問

題意識を共有し積極的に取り組むよう改善が必要である。

（評価当時の状況）

2000年に設置した「教育・学習活動支援センター（CETL）」が主軸となり、早い段階から全学的なFD活動を積極的に展開してきた（2007年度自己点検・評価報告書48頁）。これに呼応し各学部教員も徐々に意識改革が進み、FD活動への参加者数が増えてきていた（同）。しかし、当時の各学部における自己点検・評価の際には、まだまだ改善の余地があり、もっと多くの教員がこうした取り組みに参加すべきであるという、より向上的な認識をもっていた。かつ、各学部における独自のFD活動はまだ緒についたばかりだった。

（評価後の改善状況）

2008年度に「全学FD委員会」及び「各学部FD委員会」を設置し、全学としてのFD活動と、各学部独自のFD活動をリンクさせ、全学あげて展開している（各学部のFDへの取り組みは別掲）。

全学FD委員会としては、2008年度に

- ・教員FD意識調査による実態把握
- ・全学FD委員会ホームページ開設
- ・新任教員研修委員会設置
- ・全学FDフォーラムの企画拡充（ワークショップ型）
- ・学外の諸研修、セミナー等への専任教員の派遣

・「授業外学習時間向上3カ年計画」の策定（～2010年度）と授業方法等の改善強化などに取り組んできた（別紙3）。さらに、全ての専任教員に対して全学教職員対象のセミナー、ワークショップや、各学部で実施するFD企画等に原則3回参加することを努力目標として意識の向上をはかった。

2009年度からは

- ・年間全6回のFDプログラムを設定（別紙4）
年間を通してFD活動に参加できるように改善
- ・新任教員研修実施（5月）

などの取り組みを新たに企画し、全学的な参加努力を促した。その結果、2009年度に3回以上参加した教員は全体の65%となった。2回参加まで含めると80%の教員が何らかのFD活動に参加し、かなりの成果と考えている（別紙5）。

2010年度においては、新たに、

- ・各学部に15万円のFD予算を配分
各学部におけるFD活動に対する全学的な支援体制の整備
- ・前年度同様全6回のFDプログラムの設定（別紙6）
- ・「全国私立大学FD連携フォーラム」加盟
他大学と連携しながらのFD活動の展開

などに取り組んでいる。

以上のように全学及び各学部での積極的な取り組みにより、別紙6のとおり参加教員も増加し、FD活動がより組織的に、大きく活発化したと評価できる。

(参考資料)

(別紙3) 「2008年度__全学FD委員会の取り組み」

(別紙4) 「2009年度__FDプログラム」

(別紙5) 「2009年度__FD参加率全学まとめ」

(別紙6) 「2010年度__FDプログラム」